

研究計画名: 脳機能改善作用を有する機能性食品開発

プラットフォーム名: 健康長寿社会の実現に向けたセルフ・フードプランニングプラットフォーム
コンソーシアム名: 脳機能改善食品開発コンソーシアム
代表機関名: 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究部門

計画の概要

目的: 消費者ニーズの高い、脳機能改善作用を有する農作物及び食品素材を開発する。

研究内容: ケルセチン高含有タマネギについて、農作物の機能性表示に必要な規格設定手法の開発、簡易分析法の開発、及び認知機能改善効果の実証を行う。また睡眠の客観的評価が可能な新規評価手法を用いて、複数の食品素材の睡眠改善効果を実証する。

具体的目標: ケルセチン高含有タマネギの機能性表示を可能にする。

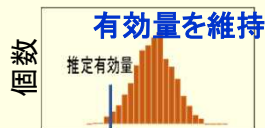
睡眠改善効果または認知機能改善効果を有する食品素材を開発し、上市する。

研究計画概要図

農作物



ケルセチン高含有品種
「クエルゴールド」



ケルセチン含量
サンプリング・分析して、
有効含量を維持する条件
(規格)を設定



開発したケルセチン簡易
測定法を定量法に改良



介入試験とメカニズム解明
で科学的根拠を実証

規格設定手法を開発、簡易分析法を開発、認知機能改善効果を実証

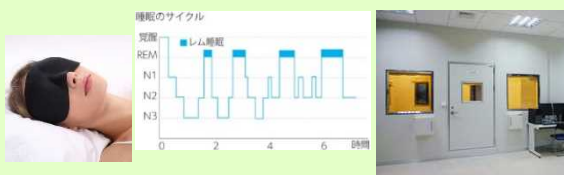
食品素材



烏龍茶



ローズヒップ



睡眠を客観的に評価できる新規ウェアラブル
デバイスとヒューマンカロリーメーターによる評価

睡眠と代謝の新規評価法で
食品素材の睡眠改善効果を実証

【参画機関】

農研機構食品研、農研機構
東北農研、北見工大、弘前大、
北海道情報大、岐阜大、
(株)植物育種研、(株)ダイセル、
筑波大学、サントリーグローバル
イノベーションセンター(株)、
森下仁丹(株)

【目指す姿】

- ・タマネギの機能性表示で、
生産者の所得2割向上
- ・機能性食品分野で、
10-100億円の新産業創出
- ・1000億円のタマネギ市場と
1500億円の機能性表示
食品市場の拡大

ケルセチン高含有タマネギの機能性表示を可能に
睡眠改善効果を有する食品素材を上市
ケルセチン高含有タマネギ由来食品素材を上市